

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選

その14

文：長谷沼 清吉^{せいきち}さん

高目の化け猫物語

むかしむかしの話。高目の^{あらやしき}新屋敷に家が4、5軒あったころの話だど。高目に旅芸人が来て、寺で唄や踊りを見せただど。

村人はこぞって見に行ったのに、新屋敷のとある家では、まだ来たばかりの嫁に「おめえは家の掃除でもしてろ」と言って連れて行かねがっただど。嫁は行きだぐて行きだぐて、声を出して泣いただど。そしたら飼っていた猫が「嫁こよ。そんなに行きでのか。唄や踊りを見てのか」と言ったとき。嫁が「オラもみんなと同じよに見て」と言うと、「そんなじゃ、芸人よりも上手にやって見せっべは」と言って、次から次へとやって見せただど。嫁は涙をながしながら「猫様ありがと。本当にありがてな」と喜んだだど。

猫は「これ嫁こよ。絶対に人にしゃべんざねぞ」と何回も何回も念を押しただど。

嫁は言うことを守っていたけど、しゃべっきてしゃべっきて、10日位もぞもぞしていたけど、我慢できなくて「オラ寺さいかねけど、猫にそれ以上の芸を見せてもらった」と、たいそう自慢をしただど。「あれ程しゃべんなどゆったのに、ペラペラしゃべったべは」と猫はたいそう怒って、その嫁の咽に^{のど}くらくらいつき^か噛みちぎっただど。

それが元で嫁は死んでしまい、働きてを失ったその家は運が下がり調子になり、そのうち潰^{つぶ}れてしまっただどさ。

(福地美代子氏談より)



踊る猫と喜ぶ嫁
(イラスト：高久めぐみさん)



↑現在の高目の新屋敷付近



今月の表紙

今月の表紙は、5月10日に
行われたこゆりこども園での
交通安全教室から。園児たち
は、交通安全母の会の皆さん
や丞神デナーなどに交通ル
ールを教えてもらいながら、右
見て、左見て、右見て、手を
挙げて元気に横断歩道（園内
に作った模擬横断歩道）を
渡っていました。

編集後記

そつえば、うっかり触れ
るのを忘れていたのですが、
4月から広報担当が2人体制
になっています。すでにイベ
ントなどで見かけた方もいる
かもしれませんが、これから
は、私が引き続き1日号（広
報にしあいづ）を担当し、月
の真ん中15日号（広報にしあ
いづお知らせ版）を本年度採
用のニューフェイス、二瓶
弘勢^{ひろせい}くんが担当します。今後
は15日号にも「編集後記」が
できるとかできないとか。

編集後記が一番大変？ 長谷川祐一